

## SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書

ラボ名称	アドバンスド・パブリッシング・ラボ			
ラボ代表者	氏名	村井 純	所属	慶應義塾大学
ラボ設置期間	2017年4月1日 ~ 2024年3月31日		7	年間

ラボラトリの学外研究拠点 ※学外の拠点で活動している場合、その詳細を記載ください。	
名称（例：東京〇〇ビル）	所在地（例：東京都〇〇区〇〇1-1 5F）

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
村井純	教授	代表
中村修	環境情報学部・教授	代表補佐
加藤文俊	環境情報学部・教授	プロジェクト推進
宮垣元	総合政策学部・教授	プロジェクト推進
和田龍磨	環境情報学部・准教授	プロジェクト推進
佐藤雅明	政策・メディア研究科・特任准教授	プロジェクト推進
岸上順一	SFC研究所・上席所員	プロジェクト推進
村田真	政策・メディア研究科・特任教授	プロジェクト推進
芦村和幸	政策・メディア研究科・特任教授	プロジェクト推進
吉井純一	SFC研究所・所員	プロジェクト推進
高見真也	SFC研究所・所員	プロジェクト推進
吉澤直美	SFC研究所・所員	プロジェクト推進・事務局

## 年次活動実績報告

### 研究活動報告 (設置申請書, 継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。)

EPUB WG3C EPUB3-WGで共同議長を務めることでEPUBをめぐる国際標準化活動に参画し日本の状況を世界に認識させつつ、EEPUB 3.3のCR化を進めるなかで既存のEPUB資産の利活用を阻害することがないようにMLやGitHubなどを用いて国内業界内でのユースケースの吸い上げを行ってきた。

Accessibility WG : 日本書籍出版社協会に設置された読書バリアフリー委員会などと協力してアクセシビリティの研究を進めるため、2月にはEUで発効する法的規制のセミナーを開催した。出版物をアクセシブルにするためのガイドライン制定に協力するとともに混乱を避けるため日本DAISYとのパイプ強化に努めた。また電書協とデジコミ協が合流して誕生した一般社団法人デジタル出版者連盟(略称・電書連)や電流協と海外技術動向の共有について連携を確認した。しかしながら専門書や教科書出版社などと一般書出版社の認識にまだ大きな差があるため、情報共有をさらに進める必要があると認識している。

国際化WG : ウェブにおけるルビ表記の技術標準化と開発をCSS WGメンバーと協力して行ったが、このスペックの実装がなかなか進まない。ブラウザベンダーやリーディングシステムのエンジニアに対し重要性を認識させる具体的な活動を模索している。

出版とデジタル知財WG : 電子書籍の登場により出版業界の産業構造にはプラス面と同時にマイナス面でも大きな変化が生じた。実際に日本が世界に誇るコンテンツであるマンガは海賊版問題で大きな影響を受けた、当初は基本的にはリンクサイトも国内問題として捉えていられたが、違法サイトは海外でも活動し始め、日本の出版者は大きな被害を受けている。単なるメディアの変遷としての電子化のみならず、サブスクリプションやアプリなどによる新しいユーザー体験、あるいはウェブトゥーンのような表現手法の変化も発生している。WGとしては今年度は課題出しの段階となった。

広報活動 : 「ROUND ABOUT THE BOOK」「EPUB最新動向とルビ仕様について」などのセミナーを実施した。

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

- \* W3C EPUB 3.3: <https://w3c.github.io/epub-specs/epub33/core/>
- \* 日本語組版要件ギャップ分析と要件文書化 : <https://w3c.github.io/jlreq/home>
- \* 「書物の「本質」を捉え直す「Round About The Book」 : <https://www.aplab.jp/round-about-the-book>